

事業概況



概要

アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国において、原油の自主開発・生産を行う事業です。

輸入した原油を製油所で精製し、全国のサービスステーションや工場等へ販売する事業です。

売上高※1	445億円	2兆999億円
経常利益※1	93億円	412億円
経常利益※1 (在庫影響除き)	93億円	18億円
従業員数※2	285名	4,541名

主な資産

- 原油埋蔵量 (確認・推定)
154.0百万バレル
約23年分の供給量に相当
- 原油生産量 (グループ合計) ※5
約4万バレル/日
精製能力比 約10%
- パートナーシップ
約50年にわたる
産油国との強固な信頼関係

- 原油処理能力※2
40万バレル/日
国内シェア 約11.4%
- 国内SS数※2
サービスステーション (SS) 数
2,957ヶ所
- コスモ・ザ・カード
会員数
約444万件
(2017年3月末時点)
- 個人向けカーリース事業※2
累計 **37,077台**

コスモエネルギー開発

アブダビ石油
カタール石油開発
合同石油開発

コスモ石油

コスモ石油ブルikanツ
京葉精製共同事業
ジクシス

コスモ石油マーケティング

コスモ石油販売
総合エネルギー

在庫影響とは

「在庫影響」とは、原油価格が変動した際、棚卸資産の評価方法によって、決算上の売上原価が影響を受けることを指し、以下の2つに区分されます。

① 総平均法による在庫影響

棚卸資産の評価方法である「総平均法」によって受ける収益上の影響を指します。原油価格上昇局面では、期中の上昇した仕入在庫単価が期中比安値の期初の在庫単価と平均されるため、売上原価を押し下げ (コスト減少=在庫評価益)、反対に原油価格下落局面では、期中の下落した仕入在庫単価が期中比高値の期初の在庫単価と平均されるため、売上原価を押し上げることとなります (コスト増加=在庫評価損)。

② 簿価切り下げによる在庫影響

棚卸資産の期末時点の時価が簿価を下回っている場合、簿価を時価まで切り下げるが必要となり、これにより損失が発生することを指します (コスト増加=在庫評価損)。



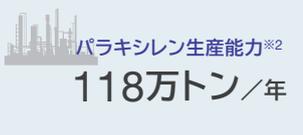
ポリエステル繊維、ペットボトル、プラスチック、合成ゴム等の原料の製造を行う事業です。



石油関連以外の事業です。主に再生可能エネルギーとして、風力発電事業を展開しています。



3,784億円	606億円	2兆2,923億円 ^{※3}
222億円	38億円	814億円 ^{※3}
222億円	38億円	420億円 ^{※3}
1,098名	935名 ^{※4}	6,859名

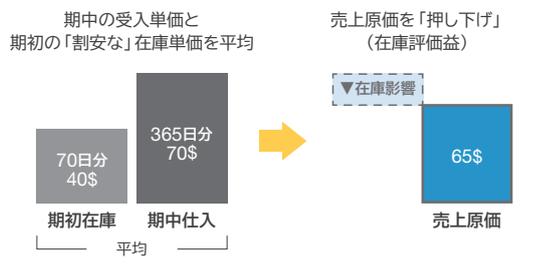


丸善石油化学
コスモ松山石油
CMアロマ
Hyundai Cosmo Petrochemical

エコ・パワー
コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス
neo ALA

※1 2016年度実績
※2 2017年3月31日現在
※3 連結処理を含む
※4 風力発電事業(エコ・パワー)は96名
※5 2016年1月~12月実績

原油価格が上昇する局面



原油価格が下落する局面

